

前近代の受胎調節をめぐる

新村 拓

いつの時代においても計画出産という概念はあった。計画出産は自分たちの生活を守るために、あるいは村の存続のためになされるものであり、それは第一に、人口を適正な規模に押し止めるための工夫、第二に、望まない季節における出産を回避するための工夫、第三に、優秀児を得るための工夫、において顕著にあらわれている。出産調整といえ、とかく墮胎・間引きの行為が前面に出がちであるが、実際にはそれに至る以前の段階において受胎調節や出産回避のためのさまざまな工夫（手段）が、古代以来、試みられていたのである。その工夫とはまず、性交にかかわる禁忌や禁欲にもとづく性交回避にはじまって、道教の養生法に由来する性交中断、避妊効果があるとされる長期の授乳行為、避妊薬あるいは墮胎薬（通経薬）の使用、性欲減退薬（不発薬）の服用、避妊具の使用などがあり、前近代社会においても計画出産を可能にさせる手立てが考えられていたのである。

ここで、受胎調節にもとづく計画出産という概念の存在を裏付けるために、統計的な処理が可能な幕末から現代に至る時期の月別出生率をとってみたところ、具体的な数値については省略するが、おおよそ次のような結果となった。すなわ

ち、近代およびそれ以前の社会では、出生の山は冬場にあり、夏場は低出産の傾向にあった。それが現代に入ると、夏にも出生の低い山が生まれ、やがて冬の山は消える。そして、総体として出生の季節的な変動は縮小することとなった。これは何を意味しているのかと言えは、かつては農閑期に出産を合わせるといふ農事暦を念頭においた受胎調節がなされていたのであり、現代のそれは無季節性の会社暦に変わったということである。いずれの時代においても出産の月を意図的に操作する受胎調節がなされていたと考えることができる。

（平成七年九月例会）

『鎮将府日誌』について

（その一・序説）

中西 淳朗

昨年の「横浜軍陣病院の再検討」に引きつづき、『東京大病院の日記』等を読むうちに、明治維新時の一時期に、鎮将府という機関が東京大病院とかかわっていることを知った。

最近、『鎮将府日誌』二十四巻と『明治官令医範』を入手したので、これらを中心に研究をすすめている。

『鎮将府日誌』は、十四×二十一センチ、一巻が美濃紙十五枚ほどで、二巻を一冊とした木版刷りの和綴本で、全二十四巻十二冊となっている。記事は慶応四年七月二十七日から十月八日までのことを記している。

第一巻は重要通達事項のみで、巻末に『鎮台日誌』の訂正文が挿入されており、『鎮将府日誌』のもつ性格の一面を示している。第二巻以降は、維新戦争第二期の東北地方での戦闘記録が主体である。

慶応四年七月十七日、江戸を東京と改称する詔勅が出、これに伴って有栖川大総督府宮が鎮台を免ぜられ、三条実美右大臣を鎮将となした。新政府は政務総裁たる鎮将を新設した東京府に在勤せしめ、駿河以東十三ヶ国を支配せしめた。

東京大病院は、この年の七月二十日に医学所に併合され、所属が鎮台から東京府に変わり、さらに九月十三日より鎮将府に変更された。そして十月十九日から再び東京府に移っている。

『鎮将府日誌』には、細部に及ぶ人事の記録はないが、三職七科制をふまえた組織と考えられる。注目すべき記事としては、誰が、何時、何処で負傷し、浅手か深手かまでを記入してあり、その戦傷兵が「横浜軍陣病院」にどれだけ辿りつけたかは今後の大きな調査課題のひとつである。

一例を示すと、七月十三日の磐城平城の攻防戦で、負傷した薩摩藩の財部与八(浅手)、同小隊長の樺山十兵衛(深手)は、共に小名浜を経て同月二十七日に「横浜軍陣病院」の太田陣屋に入院し、与八は八月二十八日、十兵衛は八月二十四日に死亡している。

また、興味をひく点としては、京都の太政官代にのみ死傷

者報告をした藩、東京の鎮将府のみに報告した藩、両方へ時期を分けて報告している藩に大別される。

このような混乱を生じた原因や、東京大病院の所属の変遷が、維新政権内部での政治的綱引きや天皇東遷がからみ合う(土佐藩・福岡孝弟の証言他)ものと考えられ、重要な課題としてさらに研究をすすめることとした。

(平成七年九月例会)

陰陽—中国古代医学の枠組み概念、其の一—

家本 誠 一

中国古代医学には陰陽、五行、三才という三つの枠組み概念がある。この三つの枠組みの中に医学のほぼすべての内容が盛り込まれている。故に中国古代医学の究明にはこれらの概念の検討は欠かすことが出来ない。

陰陽の語源的定義

陰は、阜(おか)十云(くも)十今(含、閉じ籠もる)より成る文字で、日の当たらない陰地を意味する。湿気が籠もって鬱とおしく冷たい。陽は、阜十易(日が昇る)より成る文字で、日の当たる丘を意味する。明るく温かい。即ち陰陽は、語源的には、太陽エネルギーの地上に於ける存在様式を示す言葉である。陽は明るく、温かく、乾いて、活動的な性質を持つ。陰は暗く、冷たく、湿った、安靜的という性質を持つ。